

地方独立行政法人りんくう総合医療センター  
平成 26 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果  
(案)

平成 27 年 7 月

地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会

# 目 次

	ページ数
1 年度評価の方法	1
2 全体評価	2
(1) 評価結果	2
(2) 全体評価にあたって考慮した事項	2
3 大項目評価	3
3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	3
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	3
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	4
3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	5
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	5
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	6
3-3 財務内容の改善に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	7
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	7
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	8
3-4 その他業務運営に関する重要事項	
(1) 評価結果と判断理由	8
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	9
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	9

## 1 年度評価の方法

地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）においては、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、地方独立行政法人りんくう総合医療センター（以下「法人」という。）の平成 26 事業年度の業務の実績に関する評価を次のとおり行った。

### 1 評価の基本方針

中期目標及び中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、法人の継続的な質的向上に資するものとし、業務運営の改善や効率化等の特色ある取組や様々な工夫を積極的に評価するものとする。また、評価を通じて、中期目標及び中期計画の達成に向けた取組状況等を市民にわかりやすく示すものとする。

### 2 評価の方法

評価は、「項目別評価」（小項目評価及び大項目評価）と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人の小項目ごとの自己評価をもとに、実施状況等の事実確認、法人のヒアリング等を通じて、年度計画に照らし合わせて進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証、評価を行う。

「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、また、法人化を契機とした病院改革の取組みなども考慮しながら、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

なお、上記 1 評価の基本方針及び 2 評価の方法については、平成 23 年 8 月 31 日評価委員会において決定した「地方独立行政法人りんくう総合医療センターに対する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人りんくう総合医療センターの年度評価実施要領」に基づくものである。

## 2 全体評価

### (1) 評価結果と判断理由

地方独立行政法人への移行後4年度次である平成26事業年度において、**年度計画及び中期計画の達成に向けて概ね計画どおり進捗している。**

大項目評価において、業務運営の改善及び効率化に関する事項及びその他業務運営に関する事項についてはA評価（計画どおり進んでいる）、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項については、小項目において目標を達成できなかった項目が1つあったことからB評価（概ね計画どおり進んでいる）、財務内容の改善に関する事項については、小項目数が7つと少ないこと及び小項目において目標を達成できなかった項目が1つあったことで、評価Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満となったため、C評価（やや遅れている）が妥当であると判断したものである。

各計画項目に対する取組状況としては、全体的には計画に沿ったものであった。

特に感染症対策では、平常時から訓練するなど準備を整えることができていたため、実践においてスムーズな患者対応ができたことを確認できた。

しかしながら資金収支においては、病床稼働率の上昇など医業収益の確保に努め、目標は上回ることは評価できるものの、材料費及び控除対象外消費税の増加などの要因で結果的に経常収支比率の目標を達成できなかった。このようなことを踏まえて、引き続き経費削減に努め、次年度以降の病院運営につなげていくことを期待するものである。

### (2) 全体評価にあたって考慮した事項

- ① 当期総損失として、約9,400万円の赤字決算報告がなされたものの、医業収益は病床稼働率を高い水準で維持するなど、前年度比で約63,200万円増加し、E S C O事業等による光熱水費及び後発医薬品採用拡大など経費の削減に努力し、目標達成に向けて収益確保に努めてきたことは評価できる。
- ② 平常時の防護服脱着訓練等の成果を活かし、エボラ出血熱疑いの患者に対し迅速な受入れがスムーズに行えたことや救命救急センターと協働し重症救急及び地域の医療機関で重症化した患者を幅広く受け入れる体制の充実を図れたことにより、地域の中核病院としての機能を果たしている。

### 3 大項目評価

#### 3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項

##### (1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**B評価（概ね計画どおり進んでいる）**とする。
- 37項目のうち36項目において、小項目評価がⅢ以上となっている。
- 救急医療については、救命救急センターと協働し、重症救急や地域の医療機関で重症化した患者を幅広く着実に受け入れられる体制を引き続き整備し、救急患者の受け入れ目標数を大きく上回ったことや診療情報連携システム（なすびんネット）の運用の拡大により、地域医療機関との連携を強化したことは高く評価するも、院内に設置したご意見箱に投函された苦情件数が増加したことを踏まえ、関連する小項目の評価をⅡとしたことから、大項目評価としてB評価が妥当であると判断する。

S …… 中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（評価委員会が特に認める場合）

A …… 中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

**B …… 中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。**

**（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）**

C …… 中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D …… 中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（評価委員会が特に認める場合）

##### (2) 大項目評価にあたって考慮した事項

① 【1 (1) 災害医療・救急医療②】について、救急医療において、救命救急センターと協働し、受け入れ体制を整備したことに加え、重症外傷患者に対してはドクターカーの早期出動を行うとともに、外科と救命救急センターが協働して設立した急性期外科センター（Acute Care Surgery Center）の機能を充実させたことなども併せて、救急受入患者数において目標を上回ることができたことを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

② 【2 (1) 医療職等の人材確保③】について、看護職員採用促進プロジェクトチームによる取り組みをはじめ、引き続き学校訪問や施設見学、インターシップの受け入れも行うことで就職に結びつけるとともに、離職率についても8.9%（大阪府平均13.9%）と低く抑えている。また、産前・産後休業、育児休業制度に加え、独自に育児休業後に部分休業制度を設けるなど女性医師や看護師が働きやすい病院づくりにつとめていることを評価し、小項目評価ではⅣ評

価としたものである。

③ 【3(2) 患者中心の医療③】について、クリニカルパス適用率が目標値を上回ったことや入退院サポートセンターでは予定患者だけでなく、緊急入院患者にもベッドサイドにも出向く運用を開始するなど、利用患者が大幅に増加となり、スムーズな転退院へもつながったことを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。

④ 【3(5) ボランティアとの協働によるサービス向上①】について、厚生労働省支援事業である「外国人患者受入れ医療機関認証制度」に当センターが認証されたことや厚生労働省平成26年度補助金事業「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の拠点病院に選定されたことにより、医療通訳ボランティアの活動をさらにサポートし、外国人患者へのサービスに寄与していることを評価し、小項目評価ではIV評価としたものである。

⑤ 【4(1) 地域の医療機関との連携①】について、紹介率61.2%、逆紹介率93.6%で年度目標値を達成した。また、病病連携協議会事務局部会、地域医療懇話会の開催で、顔の見える連携や診療情報連携システム（なすびんネット）の運用の拡大により、地域医療機関との連携を強化したことにより、小項目評価ではIV評価としたものである。

#### <小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 質の高い医療の提供	10			9	1	
2 医療水準の向上	5			4	1	
3 患者・住民サービスの向上	18		1	15	2	
4 地域医療機関等との連携強化	4			3	1	
合計	37	0	1	31	5	0

#### (3) 評価にあたっての意見、指摘等

① 外来・入院ともに25年度実績より受入れ患者数が増加しているが、より小児科医師の確保を図り、一般小児科の充実にも取り組んで欲しい。

② 手術件数の増加数を見るかぎり評価に値する数字ではあるが、そういった状況において、手術待ちの期間をもう少し短縮できるように効率を上げる方法を検討して欲しい。

- ③ 患者の満足度という観点から、苦情件数が増えていることを真摯に受け止め、その対応及び院内への周知等に十分に努めて欲しい。
- ④ 外国人患者の受診に関する問題を早期に解決できる体制の整備については、通訳実績の増加などを見ても、十分に評価できる。
- ⑤ インシデント及びアクシデントの報告件数が増えていることから、発生状況をより分析し、再発防止策について取り組む必要がある。

### 3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

#### (1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 15項目すべてにおいて、小項目評価がⅢ以上となっている。
- 予算執行・契約の弾力化、新たな給与制度やフレキシブルな勤務体制の構築など、地方独立行政法人化に伴って、そのメリットを活かした業務運営の改善、効率化に取り組んでいることが認められる。また、組織の運営管理体制の確立のため、理事会を筆頭に、病院幹部が参加する幹部会や各委員会の部門代表が参加する運営会議など、経営状況等の報告や課題認識を共有化し、病院が一丸となっていることがうかがえる。大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

S …… 中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。  
 （評価委員会が特に認める場合）

**A …… 中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。**  
**（すべての項目がⅢ～Ⅴ）**

B …… 中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。  
 （Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C …… 中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。  
 （Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D …… 中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。  
 （評価委員会が特に認める場合）

#### (2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 運営管理体制の確立①②③】について、理事会以外に幹部会、各部門の代表が参加する運営会議、診療科部長会を定期開催するとともに、年度目標とその達成方策・部門の抱える課題・解決策等について、部署ごとの病院長ヒアリングの実施し、その内容を踏まえて、バランス・スコアカード(BSC)の作成・BSC大会の開催などを通じて、各部門間でのお互いの取組みについて共有するなど、効率的な経営を進めていることが認められる。

- ② 【2 (3) モチベーション向上につながる評価制度の導入】について、医師、事務職及び看護職の人事評価票の見直しを行い、診療科及び病棟への不公平感を解消するとともに、引き続き医師に対して、賞与への反映を実施したことは評価できる。
- ③ 【2 (5) 予算執行の弾力化等②】について、研修棟建設工事において、建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行うPFI方式で実施し事業コスト縮減に努めていることは評価できる。
- ④ 【2 (6) 病院機能評価の活用】について、新病院機能評価の受審結果を院内イントラネットで中間報告し、関係部署や各委員会において、さらなる充実・向上にむけて取り組んでいることは評価できる。

#### <小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 運営管理体制の 確立	3			3		
2 効率的・効果的 な業務運営	12			12		
合計	15	0	0	15		0

#### (3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ① 人事評価制度の導入により、医師の賞与への反映を実施したことは評価するが、今後は現状の課題を整理したうえで、全職種に広げていくべきである。
- ② 医療事務の複雑化に伴い、作業内容の専門化や事務量の増加があることは理解しているうえで、さらなる事務の効率化に向けての改善に努めて欲しい。
- ③ 病院機能評価受審にあたり、評価調査者の適格な評価を受け、病院全体としての課題に対して、継続的に取り組み状況の進行管理を行っていることは評価できる。



### 3-3 財務内容の改善に関する事項

#### (1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**C評価（やや遅れている）**とする。
- 7項目のうち6項目において、小項目評価がⅢ以上となっている。
- 医薬品や診療材料の購入について、管理コストの効率化などを図っていることや光熱水費などに関しても、E S C O事業の導入や院内の照明設備をL E D化するなど、経費削減に取り組んでいることは評価できる。しかしながら、病床稼働率は高い水準で目標を上回ってはいるものの、消費税増税による営業外費用が増加したことなどの要因で、経常収支比率は目標を下回ったため、大項目評価としてはC評価が妥当であると判断する。

S ……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（評価委員会が特に認める場合）

A ……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B ……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

**C ……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。**

**（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）**

D ……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（評価委員会が特に認める場合）

#### (2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 資金収支の改善】について、経常収支において、高度医療及び救急医療を提供する医療体制で取り組み、医業収益については目標数値を上回ることができたことは評価できるが、消費税増税による営業外費用が増加したことなどにより、指標となる経常収支比率が100%を下回ったことから、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ② 【2 (1) 収入の確保①】について、入院診療単価、平均在院日数、外来診療単価は目標値に達していないものの、全ての指標において昨年度の実績を上回る結果となった。特に病床稼働率は90.8%と高い水準を示しており、新入院患者も9,556人と昨年より526人増加するなど、効率的な利用に取り組んでいるところが評価できる。
- ③ 【2 (2) 費用の節減①】について、地域冷暖房システムを廃止し、E S C O事業に切り替えたこと、院内の照明設備をL E D化するなど大幅な光熱水費の削減を図っていることを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 資金収支の改善	1		1			
2 収入の確保と費用の節減	6			5	1	
合計	7	0	1	5	1	

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ① 病床稼働率は、これ以上要求することができないぐらい高い水準を示していることで評価できる。
- ② 入院診療単価にしても、目標値は下回っているものの高い値を維持している。
- ③ 救命救急センターとの統合があったという要因を含めても、職員給与費比率が下がるように、引き続き努めて欲しい。

3-4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、**A評価（計画どおり進んでいる）**とする。
- 3項目のうち2項目において小項目評価がIV、1項目がIIIとなっており、救命救急センターとの円滑な統合を経て、診療機能の一層の充実及びスケールメリットを活かした運営に向け、大阪府や近隣医療機関との調整協議を進めており、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（評価委員会が特に認める場合）

**A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。**

**（すべての項目がIII～V）**

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（III～Vの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（III～Vの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（評価委員会が特に認める場合）

## (2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 感染症対策】について、感染症に関する職員の危機意識と対応能力の向上を図るとともに、危機管理機能の充実を図るため、感染症法に基づく患者搬送等について研修会や訓練を行った。実際、エボラ出血熱疑いの患者が搬送されたときにも、平常時の防護服脱着訓練や患者搬送訓練の成果が活きて、スムーズな患者対応ができたことを評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ② 【2 救命救急センターとの円滑な統合】について、統合した救命救急センターと一体となって、重症救急や地域の医療機関で重症化した患者を幅広く受け入れることができた。特に、高度脳損傷・脳卒中センターに位置づけた5階山側救命病棟の有効活用、総合内科・感染症内科とも協働し、5階海側救急科・中央管理病床を有効利用できたことなど評価し、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ③ 【3 泉州南部における公立病院の機能再編】について、市立貝塚病院・阪南市民病院と連携して、診療情報連携システム(なすびんネット)を本格運用した。また、泉州南部の医療を支える医療従事者を育成するため、共通臨床研修プログラムの運用や臨床卒後研修センター「サザンウィズ」を開設したことで、今後に期待したい。

### <小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 感染症対策	1				1	
2 救命救急センターとの円滑な統合	1				1	
3 泉州南部における公立病院の機能再編	1			1		
合計	3	0	0	1	2	0

## (3) 評価にあたっての意見、指摘等

- ① 感染症対策として、呼吸器内科の常勤医師の確保に努めて欲しい。